

# 横浜市救急医療情報システム(通称:YMIS)について

## Yokohama emergency Medical Information System

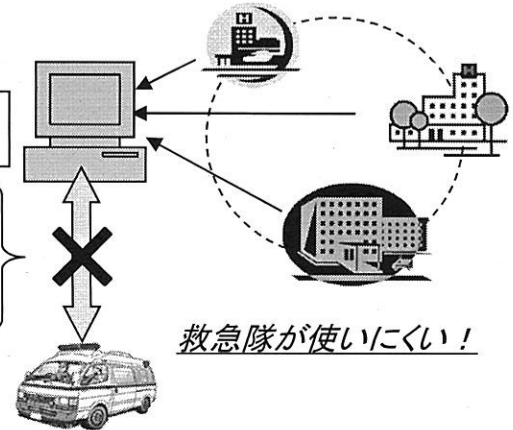
近年、救急隊が現場に到着し、搬送を開始するまでの「現場滞在時間」が延びています。搬送先病院の選定に要する時間は、滞在時間にも影響するため、健康福祉局では、救急隊の病院選定活動を支援するために、WEBにより救急病院と行政(消防局・健康福祉局)が救急受入可否の情報等を共有する本市独自のシステムを開発しています。

### 1 現在のシステム

神奈川県救急医療情報システム(県下救急病院の対応可能診療科の登録・共有システム)



- ①病院が行う受入可否情報の登録作業(一日朝夕の2回)が不確実(最近改善)
- ②時々刻々発生する救急受入ストップ情報が反映されない。
- ③本市独自の疾患別救急医療体制に関する情報が反映されない。  
(脳血管疾患、心疾患、外傷救急)



### 2 今回開発するシステム

横浜市救急医療情報システム(救急隊が有効に活用できる、リアルタイムな市内救急病院の受入可否情報等の共有システム)

主な  
特長

- ①神奈川県システムの受入可否情報を本市救急隊向けにアレンジ【神奈川県と連携】
- ②疾患別救急医療体制の受入情報の把握【病院が登録】
- ③リアルタイムな救急受入ストップ情報等の把握【病院が登録】
- ④病院ごとの救急車の集中具合の把握【救急隊が登録】
- ⑤災害発生時等に活用する病院への緊急メール機能等【行政が発信】

【参考】

年別	H21	H22	H23
救急搬送人員(人)	133,175	140,822	146,533
現場滞在時間(分)	16.8	18.1	19.2

※現場滞在時間とは、救急隊が救急現場に到着してから搬送開始までに要した時間をいう。

主な  
効果

- ①県システムの情報に加え、リアルタイムに情報を収集することで、受入可否情報の確実性等が向上【特長①、②、③】
- ②救急隊はシステム情報に基づき搬送先を選定。無駄な電話連絡が減ることで、現場滞在時間が短縮【特長③、④】
- ③緊急メール機能により、災害時の複数傷病者受入態勢等が早期に確保【特長⑤】 …等が期待できる。

運用開始

本年6月末の運用開始を予定しています。(現在、医療機関及び消防局とシステム作動状況を確認中)